

図書館だより No.190



2014(平成26年)6月6日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Tel 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp/>



6月からの展示



「昭和をかたる雑誌展」



期間：平成26年6月6日(金)～8月6日(水)

場所：福島県立図書館 展示コーナー

経済成長めざましく、メディアが急速な進化を遂げていった昭和は、まさに激動の時代であったといえます。今回は、当館で所蔵する戦前、戦中、戦後の雑誌の一部を展示します。

オリンピックや浅間山荘事件、アポロ11号月面着陸、パンダが日本に初めて贈られてきた日など、60余年を彩った数々の出来事を雑誌を通して皆さんにご紹介します。

当時、実際にニュースをご覧になった方はもちろん、昭和という時代をあまり知らない世代の方でも、誌面から立ち上る当時の活気や人々の息づかいを感じ取ることができるのではないのでしょうか。

ロビー展示

「ROCK IN RED」

期間：6月6日(金)～7月2日(水)

油彩画約12点を展示します。

「磐梯山噴火」

期間：7月4日(金)～8月6日(水)

仙台の写真師遠藤陸郎による磐梯山噴火の写真などを展示します。

「第3回えがく会 油絵作品展」

期間：8月8日(金)～9月3日(水)

油絵の会会員による14点の油彩画を展示します。

ミニ展示

「昭和を読む」期間：6月6日(金)～8月6日(水)

「昭和をかたる雑誌展」と合わせてお楽しみください。

「本で満喫・サッカーの醍醐味」

期間：6月6日(金)～7月13日(日)

移転30周年記念事業

福島県立図書館が現在の森合に移転してから、今年の7月22日で30年を迎えます。

これに合わせ、当館で所蔵する貴重資料を使ったテーマ展示や、講座などを行っていきます。

① 図書館の至宝展

総合案内カウンター前エントランスにて、今年一年をかけて様々な資料を展示していく予定です。

◆「装丁の妙～みちのく豆本の世界～」

期間：6月6日(金)～7月2日(水)

◆「磐梯山噴火」

期間：7月4日(金)～8月6日(水)

② ふくしまを知る連続講座

福島県に関わる事柄を専門的に研究されている方をお招きし、7月～11月まで毎月1回、全5回の連続講座を開催します。

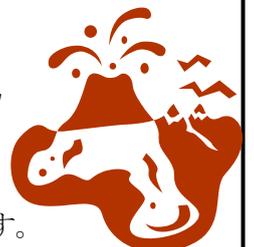
◆第1回講座テーマ「1888年の磐梯山噴火～福島県立図書館の資料を中心に～」

日時：7月6日(日)13:30～15:30 講師：磐梯山噴火記念館 副館長 佐藤公氏

③ その他予定事業

その他、普段は入ることのできない図書館の書庫見学など、様々な事業を計画しています。

情報は決まり次第、随時公開していきますので、お楽しみに！



新着案内

各分野の担当者が選んだ、お勧めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『セラピスト』

最相葉月／著 新潮社 2014.1 146.8/カ 141/
身体の病に比べ症状が分かりにくい心の病。人はなぜ病むかではなく、なぜ回復するのかを知りたいと考えた著者は、心理学者や精神科医、クライアント等へのインタビューに加え、自らも箱庭療法や風景構成法を体験し、カウンセリングの世界で起きていることの解明を試みています。カウンセリングやセラピストとは何かということのみならず、日本における心理療法の歴史も概観できます。

『図説 虹の文化史』

杉山久仁彦／著 河出書房新社 2013.12
451.75/カ 13Z/

古来から希望や幸福の象徴として人々の心を癒し続けてきた虹。雨上がりの空に色彩豊かな美しい虹のアーチがかかっているのを目にする時、誰もがしばしの幸せを感じるでしょう。そんな「虹」そのものの文化や科学的解明の歴史をまとめたのがこの本です。デカルト、フック、ニュートンなど著名な科学者たちによる虹および光学に関しての解明の歴史はもちろんのこと、「虹の麓には宝が埋まっている」というような世界中の虹にまつわる伝承なども紹介。およそ500点の美しい写真や図版を眺めるだけでも癒される内容となっています。

『自分史の書き方』

立花隆／著 講談社 2013.12 280.7/カ 13Z/
シニア世代になったら、誰でも一度は「自分史」を書くことに挑戦すべき、と著者はすすめます。これまでの自分の人生は何だったのか。どんな時代に生き、どんな人間関係を経て、何を経験してきたのか。ひとつひとつ振り返り、「自分史」という形にしていく。本書は、誰にでもできる自分史の書き方の教科書でもあり、高度経済成長期を生きてきた団塊の世代の方々による、「自分史」の豊富な作例を読める本でもあります。シニア世代だけでなく、若い方にも読み応えのある一冊です。

児童・児童図書研究

『絵本は語る はじまりは図書館から』

草谷桂子／著 子どもの未来社 2013
J019.53/カ

第1章では図書館を描いた絵本を、「図書館は、くつろぎと交流の場所」、「図書館で課題解決!」、「図書館が人生を変えた!」などテーマごとに紹介しています。その語りかけるような文章に、図書館への深い信頼と愛情を感じます。第2章では、静岡市での図書館づくり活動の記録がつつられています。

第1章では絵本によって「図書館とはどのようなところか」という真理に近づき、第2章では、理想の図書館をつくるための実践の秘訣が記されています。

雑誌・新聞

領海をめぐる衝突からベトナムで大規模な反中デモが起こるなど、日本を含むアジア諸国と中国との関係は年々緊張感を増してきています。

巨大な隣人中国について、政治、経済面から書かれた雑誌を中心に紹介します。

* 世界を侵蝕する「膨張中国」

『新潮45』2014年6月号 Z/051/S31

* 中国共産党を知るための五冊 (特集 独善中国の命脈)

『中央公論』2014年5月号 Z/051/C1

* 現地報告 アフリカに進出する中国

伊藤千尋／著

『地理』2014年5月号 Z/290.5/C1

* 中国の膨張は止められるか (特集 米韓中日本包囲網)

『文藝春秋 SPECIAL』2014年夏号 Z/051/B2/2-

* 共産党独裁と闘う四人の中国知識人 一連続インタビュー — 阿古智子／著

『文藝春秋』2014年4月号 Z/051/B2

* 中国動態

『週刊東洋経済』2014年5月24日号 Z/330.5/T4

* 中国の横暴と深謀

『Newsweek』2014年5月27日号 Z/051/N11

地域

『終わらない原発事故と「日本病」』

柳田邦男／著 新潮社 2013 LS914.6/Y8/1

ジャーナリストであり、政府の原発事故調査・検証委員を務めた著者の評論集です。人間の命を守る社会システムが病んでいることを「日本病」という用語で捉えて、最近の事件や災害を振り返り、その根底には福島原発事故と同様の問題があることを指摘しています。また、被害者・被災者の視点で分析し、現場の事実を尊重して論じる「生涯現役の取材者」としての強いメッセージが伝わってきます。

『只見線敷設の歴史』

一城楓汰／著 彩風社 2014.2 L686.2/I3/4

鉄道写真家である著者が、福島県と新潟県を結ぶ交通の要であり、風光明媚な路線としても知られる「只見線」をテーマに書かれた本です。明治の鉄道敷設運動から始まり、戦争の時代を経て、1971年に全線開通が成されるまでのドラマチックな歴史を、社会情勢、携わる人々の尽力とともに描いています。「鉄道とは何か」、「鉄道とは誰のためにあるのか」という問いに迫る、鉄道への愛と情熱が詰まった一冊です。